

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520706

研究課題名（和文） 集落内水路に関する環境民俗学的研究

研究課題名（英文） Environmental folklore research on sluice in villages

研究代表者 市川秀之（ICHIKAWA HIDEYUKI）

滋賀県立大学・人間文化学部・准教授

研究者番号：80433241

研究代表者の専門分野：民俗学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：環境・集落・水利用

### 1. 研究計画の概要

本研究は滋賀県下の農業集落および都市でみられる水路について、環境民俗学的視点から現在の分布および機能を把握したうえで類型化を行い、また歴史的形成過程について解明することを目的とする。本研究においては、まず滋賀県下の集落内水路について現地調査によって概括的な把握を行ったうえで、その類型化を実施し、各類型の代表となる集落を10箇所程度選定し、その集落において集中的な調査を実施する予定である。また滋賀県下の集落内水路を相対化する上からも、また全国的な集落内水路の状況を把握する上からも、自治体史や民俗調査報告書、建築学や地理学からの集落調査の成果などの文献を検索し、必要な文献については収集し、将来的な集落内水路データベースの構築に備えたい。また滋賀県下の事例と比較するために、全国で8箇所程度の集落を選び、集中的な調査を実施する予定である。また集中調査を実施した集落については絵図、古文書などの調査を実施し、また周辺の考古学的なデータについても収集を行い、集落内水路の歴史的な形成過程について解明する作業も行いたい。以上の滋賀県下および全国の概要調査および集中調査によって、集落内水路の形態および機能の類型化、歴史的考察などを実施する。

### 2. 研究の進捗状況

平成19年度は、前半には研究の中心となる滋賀県下の明治前期の水利関係絵図・文書および村誌などを滋賀県庁において写真撮影し、その整理をすすめた。また図書館などにおいて全国の集落内水路に関する研究論文、自治体史などの検索および複写をおこなった。さらに滋賀県下において5集落の現地調査（東近江市乙女浜・同川南・同阿弥陀堂・安土町常楽寺・甲良町金屋）、新潟県新発田市において図書館における文献調査および同地における2集落の現地調査（新発田市米倉・同茗荷谷）を実施した。

平成20年度は滋賀県下において5集落（東近江市乙女浜・野洲市安治・東近江市伊庭・彦根市本庄・東近江市ゆずり尾）の現地調査を行い、水路および水利用施設の分布を地図化・写真撮影をし、また水利用の詳細について聞き取り調査を実施した。さらに岐阜県飛騨市においても塩屋・杉原・種蔵という山間部の3集落において、水路や水利用施設を地図化・写真撮影をし、あわせて聞き取り調査を実施した。低湿地については、集落内水路の利用について、タブネや水車といった民具との関連が深いことがしだいに明らかになってきたため水利用に必要とされた民具の調査もあらたに開始した。その成果をもとに野洲市歴史民俗博物館において、市史講演会の一環として「低湿地の農業と民具」という発表を行ない市民への還元を試みた。また昨年度に撮影をおこなった滋賀県庁文書のうち、野洲郡村誌および各村絵図の読解作業をおこなった。また図書館などで集落内水路についての文献情報の収集を継続して実施した。

平成21年度は滋賀県下において3集落（長浜市雨森・彦根市下石寺・高島市白谷）の現地調査を行い、また鳥取県においても現地調査（大山町樋口・大山町石井垣）を行った。またこれまでに引き続き図書館などで全国的な集落内水路の事例収集を実施し、現在までにその総数は約400に達している。

### 3. 現在までの達成度

ほぼ計画通りに進行している。

（その理由）

滋賀県下においては当初10集落程度の集中的な調査を予定していたがそれは現在までに達成し、今後はさらにその数を増やす予定である。また県外においては8箇所の集中的な調査を予定していたが現在7箇所を終了している。また文献資料などによる集落内水路の事例収集もほぼ完了している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

これまでにそれほど進行していない集落内水路の歴史的な文献の収集を集中的に行うとともに、滋賀県下および集落内水路の存在が文献に多く記されている長野県・静岡県において集中的な調査を行う。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①市川秀之「湖東地域における集落内水路の機能とその変化」、『人間文化』27号、p2～p15、2010年、査読なし

〔学会発表〕(計1件)

①市川秀之「滋賀県下における集落内水路の利用形態」、『日本民俗学会第61回年会』(2009年10月、國學院大學)